

A portrait of Michael J. Sandel, a middle-aged man with thinning grey hair, wearing a dark suit, white shirt, and a purple and white striped tie. He is looking slightly to the right with a calm expression.

マイケル・サンデル

NHK「ハーバード白熱教室」制作チーム

小林正弥・杉田晶子[訳]

ハーバード 白熱教室 上 講義録

+ 東大特別授業

世界最高の教室にようこそ！ 「正しい殺人はあるのか？」

NHK教育テレビ「ハーバード白熱教室」(全12回)で放送された人気哲学講義を完全書籍化。2010年8月に行なわれた、東京大学での来日特別授業を併録

東大講義・前篇「イチローの年俸は高すぎる？」を収録！

MICHAEL J. SANDEL

早川書房

ハーバード^{はくねつきようしつこうぎろく}白熱教室講義録＋
東大特別授業〔上〕
とうだいとくべつじゆぎよう

2010年10月25日 初版発行

2011年2月20日 12版発行

＊

著 者 マイケル・サンデル

訳 者 NHK「ハーバード^{はくねつきようしつ}白熱教室」^{せいさく}制作チーム

こばやしまさや 小林正弥 すぎたあきこ 杉田晶子

発行者 早 川 浩

＊

印刷所 中央精版印刷株式会社

製本所 中央精版印刷株式会社

＊

発行所 株式会社 早川書房

東京都千代田区神田多町2-2

電話 03-3252-3111 (大代表)

振替 00160-3-47799

<http://www.hayakawa-online.co.jp>

定価はカバーに表示してあります

ISBN978-4-15-209168-0 C0010

Printed and bound in Japan

乱丁・落丁本は小社制作部宛お送り下さい。
送料小社負担にてお取りかえいたします。

ハーバード白熱教室講義録
＋東大特別授業

〔上〕

日本語版翻訳権独占
早川書房

© 2010 Hayakawa Publishing, Inc.

JUSTICE WITH MICHAEL SANDEL
AND SPECIAL LECTURE IN TOKYO UNIVERSITY

by

Michael J. Sandel

Copyright © 2010 by

Michael J. Sandel

Translated by

NHK,

Masaya Kobayashi,

Akiko Sugita

First published 2010 in Japan by

Hayakawa Publishing, Inc.

This book is published in Japan by

arrangement with

The English Agency (Japan) Ltd.

目次

本書を読むにあたって

7

第1回 殺人に正義はあるか

11

レクチャー1
犠牲になる命を選べるか

13

〔小林正弥教授による解説〕

26

レクチャー2
サバイバルのための「殺人」

28

〔小林正弥教授による解説〕

46

第2回 命に値段をつけられるのか

49

レクチャー1
ある企業のおやまち

51

〔小林正弥教授による解説〕

65

レクチャー2
高級な「喜び」 低級な「喜び」

67

〔小林正弥教授による解説〕

86

第3回 「富」は誰のもの？

89

レクチャー1

「課税」に正義はあるか

91

〔小林正弥教授による解説〕

105

レクチャー2

「私」を所有しているのは誰？

107

〔小林正弥教授による解説〕

123

第4回 この土地は誰のもの？

125

レクチャー1

土地略奪に正義はあるか

127

〔小林正弥教授による解説〕

140

レクチャー2

社会に入る 「同意」

142

〔小林正弥教授による解説〕

157

第5回 お金で買えるもの 買えないもの

159

レクチャー1
兵士は金で雇えるか

〔小林正弥教授による解説〕

176 161

レクチャー2
母性 売り出し中

〔小林正弥教授による解説〕

194 178

第6回 なぜ人を使つてはならないのか

レクチャー1
自分の動機に注意

〔小林正弥教授による解説〕

213 199

レクチャー2
道徳性の最高原理

〔小林正弥教授による解説〕

227 215

東京大学特別授業 〔前篇〕

——イチローの年俸は高すぎる？——

229

下巻 目次

本書を読むにあたって

第7回 嘘をつかない教訓

レクチャー1

「嘘」と言い逃れ

〔小林正弥教授による解説〕

レクチャー2

契約は契約か？

〔小林正弥教授による解説〕

第8回 能力主義に正義はない？

レクチャー1

勝者に課せられるもの

〔小林正弥教授による解説〕

レクチャー2

わたしの報酬を決めるのは……

〔小林正弥教授による解説〕

第9回 入学資格を議論する

レクチャー1

私がなぜ不合格？

〔小林正弥教授による解説〕

レクチャー2

最高のフルートは誰の手に

〔小林正弥教授による解説〕

第10回 アリストテレスは死んでいない

レクチャー1

ゴルフの目的は歩くこと？

〔小林正弥教授による解説〕

レクチャー2

奴隷制に正義あり？

〔小林正弥教授による解説〕

第11回 愛国心と正義 どちらが大切？

レクチャー1

善と善が衝突する時

〔小林正弥教授による解説〕

レクチャー2

愛国心のジレンマ

〔小林正弥教授による解説〕

第12回 善き生を追求する

レクチャー1

同性結婚を議論する

〔小林正弥教授による解説〕

レクチャー2

正義へのアプローチ

〔小林正弥教授による解説〕

東京大学特別授業 〔後篇〕

——戦争責任を議論する

本書を読むにあたって

本書を手にする方の中には、NHKで放送された「ハーバード白熱教室」（二〇一〇年四月四日）、「二二回シリーズ」をご覧になった方も多いだろう。ハーバード大学の世界的な政治哲学者マイケル・サンデル教授の講義「正義」が放映され、大人気を博した。本書の中心はその翻訳（台本）であり、番組の臨場感が生き生きと伝わってくる。ハーバード講義は二〇〇五年秋学期に収録されて、もともとはアメリカのPBSで二〇〇九年九月二〇日から一二回シリーズとして放送された。番組はDVDとしてNHKエンタープライズから近日中に発行される予定である。

この講義をもとにして、サンデル教授は一般向けの著作を執筆して二〇〇九年に刊行し、日本では『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、二〇一〇年）として出版され、学問的著作としては類い稀なベストセラーとなった。

この二つの間には背景に重要な相違がある。『これからの「正義」の話しよう』が刊行された時点ではオバマ政権が成立していたのに対し、本書の講義が行なわれたのはブッシュ政権下であり、その開始した戦争状況の緊迫感が本書にも反映している。両者にはこの背景の相違が非常に興味深い形で現れており、関心をお持ちの方々には両者を読み比べることを勧めたい。

そして、サンデル教授は二〇一〇年八月末に来日され、二五日に東京大学安田講堂で対話型講義を行ない、NHKで二〇一〇年一〇月三日、一〇日に放送された。その翻訳・記録（台本）も本書にあわせて収録されている。

出版にあたっては、一二回の講義の解説（小林正弥）を中心に、必要最低限の加筆修正を行なった。特に、放映に際しては視聴者に可能な限りわかりやすくするために、説明を補ったり学術用語を平易な言葉に置き換えたりした場合もある。そこで、本書では必要な場合には原語は（）、学術用語および補足などは「」で示した。

小林正弥（千葉大学法経学部教授）

※講義で言及されている課題の各種文献は、Michael J. Sandel, ed. *Justice: A Reader* (Oxford University Press, 2007) に収録されている。



私たちの通うハーバード大学。その歴史は、アメリカの建国よりも古く、一六三〇年代までさかのぼります。ここに一〇〇〇人を超す学生が詰めかける人気の授業があります。

マイケル・サンデル教授の「政治哲学」の講義です。

これまで「授業は非公開」としてきた大学が、あまりの人気ぶりから、公開に踏み切りました。ハーバードの授業がメディアに登場するのは初めてのことです。

マイケル・サンデル教授――

「哲学と聞いただけで『難しそう』なんて言わないで。哲学は、ごく身近な設問から深めていくことができるんです。一二回にわたってご覧いただく講義のテーマは、『Justice（ジャスティス、正義）』についてです。毎回ニコマの講義を通じて、正義とは何か、日常の誰にでも起こり得ることの中から考えていきます」

第1回 殺人に正義はあるか

レクチャー1

犠牲になる命を選ぶか

(サンデル教授登場、拍手)

サンデル この講義は「正義」について考える。まず、この話から始めよう。

君は路面電車の運転手で、時速一〇〇キロの猛スピードで走っている。君は、行く手に五人の労働者がいることに気づいて電車を止めようとするが、ブレーキが利かない。君は絶望する。そのまま進んで五人の労働者に突っ込めば、五人とも死んでしまうからだ。ここでは、それは確実なことだと仮定しよう。君は「何もできない」と諦めかける。が、そのとき、脇に逸れる線路^そⅡ待避線があることに気づく。しかしそこにも働いている人が一人いる。ブレーキは利かないがハンドルは利くので、ハンドルを切って脇の線路に入れば、一人は殺してしまっても、五人は助けることができる。

ここで最初の質問だ。正しい行ないはどちらか。君ならどうする？ 多数決を取ってみよう。

ハンドルを切つて避けるという人は？ 手を挙げて。では、曲がらずに直進するという人？

直進するという人は手を挙げたままで。ごく少数の人だけだね。大多数の人は脇に逸れる。じゃあ、なぜそうするのが正しいと考えるのか、理由を聞いていこう。多数派から始めよう。なぜ直進せず、脇に逸れようとするのか。なぜそうするのか。その理由は何か。誰か理由を説明してくれる人？ さあ、立って。

女子学生1 一人を殺せばすむところを、五人も殺すのは正しくないからです。

サンデル 一人を殺せばすむところを、五人も殺すのは正しくない（一同笑）。確かに、いい理由だ（一同笑）。

ほかには？ みんな、この理由に賛成かな？

男子学生1 九・一一同時多発テロ事件と同じです。ワシントンに向かった飛行機の乗客は、地上で犠牲になる人より、数が少ない自分たち乗客が犠牲になることを選んだから、ヒーローなんです。

サンデル そこにある原理は、同時多発テロの場合と同じだということだね。悲劇的な状況だが、五人が助かるなら一人を殺すほうがいいということだ。この意見がほとんどかな？

では少数派の意見を聞いてみよう。ハンドルを切らない理由は何かな？

男子学生2 これは大虐殺や全体主義を正当化する心理と同じです。ある人種を残すために他の人種を消滅させるんです。

サンデル では君は、身の毛もよだつ大虐殺を避けたいがために、まっすぐ突っ込んで行って五人を殺すってことかな？（一同笑）

男子学生2 はい、たぶん……（一同笑）。

サンデル 突っ込む？

男子学生2 はい。

サンデル オーケー、ほかには？ 今のは勇気ある答えだったな。では、路面電車の別のケースを考えてみよう。こっちのケースでも、五人を助けられるなら一人が死んでも仕方ないという原理を、みんなが支持し続けるかどうか見てみよう。

今度は、君は路面電車の運転手ではなく、傍観者だ。電車の線路の上に掛かる橋にいて、見下ろしていると電車がくるのが見えた。線路の先には五人の労働者がいる。ブレーキは利かない。このままだと電車は猛スピードで五人に突っ込み、五人は死ぬ。今回は、君は運転手ではない。何も出来ないと言ったとき、自分の隣に、橋から身を乗り出しているものすごく太った一人の男がいることに気づく（一同笑）。もし君が、この太った男を突き落とせば……（一同笑）彼は橋から走ってくる電車の前に落ちる。彼は死ぬが、五人を助けることができる。さて、彼を橋から突き落とすという人は？ 手を挙げて（一同笑）。

じゃあ突き落とさない人？ 突き落とさないという人がほとんどだ。

さあ、ここで質問だ。「一人を犠牲にしても五人の命を助けたほうがいい」という原理はどう